



学校だより

青い鳥

平成30年度7月号
さいたま市立上落合小学校
平成30年7月2日作成

さいたま市中央区上落合4-14-24 電話852-5381
<http://kamiochiai-e.saitama-city.ed.jp/> E-mail:kamiochiai-e@saitama-city.ed.jp



係員の言うことは聞くこと

校長 藤澤 太郎

月はじめの運動会では、多くのご来賓・地域・保護者の皆様に、ご多用中にもかかわらず応援にかけつけていただきました。誠にありがとうございました。子どもたちの、得意満面の輝く笑顔を見て、大勢の前で自分の姿を見せることは大切であると思いました。お父さんお母さんの、無心に応援する「がんばれ！がんばれ！」の力の声は、本当に偉大で、子どもの成長には欠かせない要素の一つであると思います。ありがとうございました。

さて、最近あまり見かけなくなりましたが、例えばデパートなど人の集まる場所には、ほぼ、係員がいて、係員の言うことは聞くこと！というのが世の中のルールだったような気がします。ところが昭和の後半には（今も？）、係員の言うことを聞かない人がいました。某野球場での出来事、6回の裏が終わって尚もゲームが白熱している時には、大体スタンド裏の各施設（ホットドックスタンドやトイレ）が混むものです。その際、球場によっては一方通行となっており、反対側からトイレに行こうとする人と相まって、大混乱しています。（今の言葉でいうとカオスですか？）こんな時は、「係員」の登場となります。これが見ていると実に手際が良い！白い手袋をして、少々大きめのジャケットそして腕章（お客様担当とかなんとか、）の出で立ちです。「はい、はい～こちら一方通行となっております。○?△※～ご協力ください～、」となるわけです。多くの観客はその指示に従った方が早くスタンドに戻れることを知っているのも整然とホットドックとコーラをもって移動しますが、中にはどぞのおじさんがその係員に勝負を仕掛けます。

お：「(顔真っ赤ですごい形相) オレはここ通りたいんだけど～？」か：「いえいえ、○?△※～ご協力ください～、」と、もめているうちに替わりの「係員」登場で、もめている現場をスルーして、もくもくと交通整理にあたります。そうこうしているうちに7回の表が始まり、いつの間にか観客はスタンドへ、通路はガラガラになり、そのもめている現場は自然消滅となります。

※ 件のおじさんはスタコラとスタンドへ ～なぜか笑顔～

係員の仕事は難しいんだな～と当時は思っていました。もちろん私も逆らったことはありません。さらに、係員側の態度がとても大事なんだな～とも思いました。係員の判断や指示は、毎日そこにおいて仕事をしているのだから間違いない（的確だ）と思っています。したがって、「係員の言うことは聞くこと」は、現代でも、使える知恵と言うべきでしょうか。

ところで、現代は、何かに迷ったときや困った時に、係員に聞きたいのにいない！こともたくさんあります。こんな時は、自分で答えを出さなくてはなりません。今までの経験とカンで、「えいやっ」とやるわけです。私の場合は、ほぼ、じゃない方の結果になってしまいます。LLなのかLなのか？大盛りで良いのか普通盛りでも大盛りなのか？こんな後ろでもなぜS席なのか？？

係員がいない訳ではないんです。係員を探しに行けば良いのです。空いている窓口を探すのもよし、相手がデジタルであれば「お問い合わせ」を億劫がらずにすることにしましょう。

学校では、学習に関する考え方として、「学び方を学ぶ」ことが大切とされています。このことは一見、「カタチから入る」ことのように捉えられがちですが、子どもが目的をもって課題を追求する時にはとても重要なことと考えています。先生を呼んできて、自分の学びを組み立てることができれば、それが「良い学び」につながるようになります。先生は係員ではありませんが、授業展開の中では係員の役目もしています。

立葵の花がてっぺんまでできています。ぼちぼち梅雨明けの様相ですね。夏休みまでもう少しです。暑さに負けず頑張っていきましょう。

学校教育目標

あかるく

なかよく

たくましく